

駆ける炎 大室山に春

伊東市の大室山で19日、伊豆高原に春の訪れを告げる山焼き(大室山山焼保存会主催)が行われた。大勢の市民や観光客が訪れ、炎が山肌を豪快

いとう やまや
伊東・山焼き

に駆け上がる光景を眺めた。正午を知らせる花火が上がると、たいまつを手にした関係者らが麓から一斉に点火。炎は標高580以上の山頂に向けてたちまち燃え広がり、大量の煙が立ち上った。枯れ草に覆われていた山は、25分ほどで黒色に様変わりした。新芽が4月ごろから伸び始めると、緑色に染まっていく。山焼きは肥料に使うカヤの育成を促すために、約700年前に始まったとされる。背の高い草木が育たなくなるため、おわんを伏せたような美しい山の輪郭が保たれている。

伊豆に春の訪れを告げる大室山の山焼き。標高580以上の山頂まで炎が駆け上がり煙が舞い上がる。19日午後、伊東市(本社ヘリ「ジェリコ1号」から)

2017年2月20日 朝刊

①大室山は何市にありますか。

[]

②大室山は、何のために山焼きをするのでしょうか。

[]

③あなたの住む街で、春を感じる行事や出来事を書きましょう。

[]

年 組 名前

(小学校中学年以上 社会・総合)